

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（保健学）	氏名	岡田 なぎさ
学位授与の条件	学位規則第 4 条第①、2 項該当		
論文題目			
<p>Do multiple personal roles promote working energetically in female nurses? A cross-sectional study of relevant factors promoting work engagement in female nurses （多重役割は女性看護師が生き生き働く強みになるか？女性看護師のワーク・エンゲイジメントの実態と関連要因に関する横断的研究）</p>			
論文審査担当者			
主査	教授	折山 早苗	印
審査委員	教授	祖父江 育子	
審査委員	教授	中谷 久恵	
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>看護師は、仕事上のストレスが多い職業の一つとして知られている。NIOSH (The National Institute for Occupational Safety and Health) の職業性ストレスモデルによると、「仕事上のストレス要因」に家庭/家族からの要求等の「仕事外の要因」が加わると、心身の健康度が低下する。したがって、就労する女性看護師は結婚、出産、育児などのライフイベントを経験することで仕事役割以外に家庭役割を担い、多重役割を担うこととなり、「仕事外の要因」が増え、心身の健康度が低下することが予測される。また、わが国では常勤看護師の離職理由として結婚、出産、子育てなどが上位を占めていることや、潜在看護師の約 8 割が再就労を希望するにも関わらず、再就労しない理由に「子育て」や「仕事と家事の両立困難」が多く占めている現状は約 20 年間変わっていない。すなわち、わが国の就労する女性看護師にとって、結婚、出産、育児というライフイベントを経験して多重役割を担うことは、精神的健康を低下させる要因、離職の要因や再就労を妨げる要因となっており、心身ともに健康で生き生きと労働生活を営むことに抑止的に働く可能性があると考えられる。一方で、既婚の女性看護師は、人間の持つ強みや仕事に対する積極的な認識であるワーク・エンゲイジメントが未婚の者より高いことが先行研究で示され、就労する女性看護師は結婚、出産、育児というライフイベントを経験して多重役割を持ち、さまざまな要求が増える半面、労働生活を営む上での強みとなる可能性も推測される。しかし、女性看護師を対象にポジティブなアウトカムであるワーク・エンゲイジメントについて、多重役割に着目して検討した先行研究は少ない。</p> <p>多重役割に関する変数として、仕事と家庭のスピルオーバーがある。スピルオーバーは、「仕事役割」と「家庭役割」のうち、一方の役割で生じた出来事や状況が他方の役割の状況に影響を及ぼすことを示し、仕事から家庭へのネガティブ・スピル</p>			

オーバー (WFNS) , 家庭から仕事へのネガティブ・スピルオーバー (FWNS) , 仕事から家庭へのポジティブ・スピルオーバー (WFPS) , 家庭から仕事へのポジティブ・スピルオーバー (FWPS) の 4 つがある。そこで、本研究では、就労する女性看護師のワーク・エンゲイジメントの実態を明らかにするとともに、多重役割の有無を含むどのような要因がワーク・エンゲイジメントに関連しているのかを検討することを目的とした。

福岡県内にある 200 床以上の 3 か所の一般病院に勤務する女性看護師 1225 人を対象に、無記名自記式質問紙横断調査を行った。回収人数は 650 人 (回収率 53.1%) , 有効回答人数は 612 人 (有効回答率 94.1%) であった。有効回答者 612 人について、多重役割の有無による 2 群間での比較に加え、対象者全体において多重役割 (妻または母親役割) の有無、スピルオーバー、コーピング特性、仕事の要求、仕事の資源とワーク・エンゲイジメントとの関連について重回帰分析を用いて評価した。就労する女性看護師のワーク・エンゲイジメントはわが国の女性労働者とほぼ同様に低い状態であったが、多重役割のある女性看護師のワーク・エンゲイジメントは多重役割がない女性看護師より高かった。また、重回帰分析の結果、就労する女性看護師のワーク・エンゲイジメントは、コーピング方略の「視点の転換」「積極的問題解決」、仕事の資源、FWPS、多重役割があることと正の関連が、コーピング方略の「回避と抑制」と負の関連があることが示された。

本結果より、コーピング方略として「視点の転換」「積極的問題解決」を多用することと、「回避と抑制」を多用しないことや仕事の資源が多いことがワーク・エンゲイジメントの向上に寄与することが示唆された。また、2 群比較の結果 FWPS と WFNS は多重役割あり群が高かったことも加え、女性看護師にとって多重役割を担うことは仕事から家庭に対してネガティブな影響があるものの、家庭から仕事へのポジティブな影響が増し、ワーク・エンゲイジメントの向上につながることを考えられた。以上より、就労する女性看護師が仕事に対してポジティブで充実した心理状態を維持・向上するためには、多重役割を担うことが強みとなり得ることに加え、仕事上の支援や個人による効果的なコーピングだけでなく、家庭生活の充実や家庭における責任の自覚などのポジティブな影響が及ぶための対策や支援が重要であることが示唆された。

以上の結果から、本論文は、就労する女性看護師のワーク・エンゲイジメントの向上に関連する要因を示し、仕事に対してポジティブで充実した心理状態を維持・向上するための示唆を与えたことから、女性看護師のメンタルヘルス対策に大きく貢献する研究として高く評価される。

よって審査委員会委員全員は、本論文が著者に博士 (保健学) の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。